



総社バイパス 早期完成へ Goサイン

平成19年度に国府踏切南交差点まで供用開始した。ここから西が未整備区間

そのようななか、5月16日、国土交通省岡山国道事務所が平成25年度の政府予算で行う岡山県内の事業を発表。総社バイパスが9億8000万円で整備されることとなり、全線の早期完成に向け建設整備が進められます。

このバイパスが全線整備されれば交通渋滞が緩和され、総社市から岡山市間の所用時間が約6分短縮される見込みです。また、救急搬送時間も短縮されるため、岡山市中心部の救急医療施設へのアクセスが向上し、医療連携の強化が図られると期待されています。



吉備線を横断するための金井戸跨線橋が整備される計画

国道180号総社・一宮バイパス事業は、岡山市楳津と総社市井尻野（湛井）を結ぶ全長15.9kmのバイパス道路を、総事業費530億円で建設する計画です。そのうち総社バイパスの区間は7km。岡山市門前の岡山総社インターチェンジから総社市総社（国府踏切南交差点）までの区間3.4kmはすでに開通していますが、それより西の区間の早期整備が期待されています。

今年度は、本線工事区間の文化財調査や施工地域の住民を対象にした工事説明会などが行われます。また、平成24年度に緊急経済対策で追加予算措置された2億1700万円は、小寺地区の工事に充てられる予定です。



総社市窪木の岡山県立大学入口交差点付近

平成25年度の政府予算に国道180号総社バイパス事業が盛り込まれ、全線の早期完成を目指して整備が進められます。

「そうじや・宮城つ子基金」で被災地の中学生を招待

仙台市とマラソン連携

「そうじや・宮城つ子基金」の支援を縁に交流している宮城県仙台市と都内で6月4日、マラソンを通じてさらに良好な関係を築くため、「そうじや吉備路マラソン」と「仙台国際ハーフマラソン大会」が相互に連携する協定を締結しました。



連携協定書に調印を終えた奥山仙台市長（写真左）と片岡市長

東京都内の都市センターホテルで行われた協定の締結式で、片岡市長と奥山恵美子仙台市長が調印。奥山市長は、「スポーツを通じて両市民が温かい心の交流



2月24日に開催したそうじや吉備路マラソン。新谷仁美記念大黒天物産コース（10km）のスタートを切るランナー

をする連携にしていきたい」と。片岡市長は、「被災者支援を続けるなか、子どもたちの元気につながれば」と話し、マラソンを通じて交流を約束しました。

この協定により、両大会がさらに発展するようPR。また、お互いの地域への理解を深めてもらうため、「そうじや・宮城つ子基金」で支援している生徒のほか東日本大震災の被災地域の生徒をそうじや吉備路マラソンに招待したり、総社の生徒が仙台国際ハーフマラソン大会に参加したりします。

コース。一般の市民ランナーのほか、埼玉県庁職員の川内優輝選手やアテネ五輪金メダリストの野口みずき選手など国内外の一流選手も参加する国際大会です。この大会運営のノウハウを伝授してもらい、そうじや吉備路マラソンのさらなるレベルアップを目指します。



5月12日に開催された第23回仙台国際ハーフマラソン大会（愛称：杜の都ハーフ2013）。片岡市長が招待選手として招かれ、ハーフマラソンを2時間14分28秒で完走した